

第2回女性応援会議 議事録

日時 平成29年1月31日(火) 13時15分から15時まで

場所 富士宮市役所 111会議室

配布資料

次第、第3次富士宮市男女共同参画プラン(概要版)及び実施計画(抜粋)、
アドバイザー提供資料(A4縦)、事務局紹介資料(A4横)、WLB講演会チラシ

出席者

女性応援会議 委員8人

アドバイザー 静岡大学教授1人

富士宮市役所 市民交流課長、女性が輝くまちづくり推進室長 ほか2人

開会

前回の会議振り返り

情報提供① (女性が輝くまちづくり推進室長)

富士宮市の男女共同参画プランの紹介及び男性の家庭参画について情報提供
男女共同参画プラン概要版を説明

- ・男女共同参画社会基本法に沿って作成されたもの
- ・基本的施策1から7まで(このうち主に1、4、5を説明)
- ・第3次男女共同参画プラン実施計画を抜粋した資料の紹介
- ・この実施計画は、各課からの実施報告に対して男女共同参画審議会の委員が評価し、次年度への改善へつなげている
- ・基本的施策ごとに具体的な取組の紹介

学校行事における男女共同参画の推進、長時間労働の抑制などの働き方変革の推進など。

男女共同参画社会づくりに関する取組の宣言の紹介(県内の事業所、団体が宣言。例:平成何年度に女性役員の割合を何%にします、能力発揮について職員の意識改革を進めます等)

今年度も、中間報告の際、委員から評価を受けている。

当会議では、意見を広くいただきながら実効性のある何かを模索し活かしたい。

進行役を委員1に。

情報提供②

アドバイザーから男性の家庭参画について情報提供(配布資料に沿って説明)

ハードルが低そうな、すぐにできそうな他の自治体の具体的実践事例の紹介

- ・静岡市が市としてイクボス宣言(WLBのとれた職場という宣言)県内で初めて。
- ・男性の育児参加を促していくツール「父子手帳」がある。名称は様々。男性にも手帳を。
→子どもが病気になったら、陣痛が始まったら、といった事例にパパだからできることを紹介
→父子手帳をふじのみやでつくったらどうか
- ・イクメンプロジェクトHPの紹介
- ・カジダン・イクメンフォトコンテスト(アイセル21静岡市女性会館主催)
→市役所のホール、公民館に掲示で、微笑ましく楽しいイベントとして活用できるのでは

- ・厚労省HPでの紹介（三島市のご当地イクメン&イクボス取組み：育メン教室の開催など）
→実施方法を工夫するとよい。お母さんの産褥期（退院してから2～3週間程度）をのりきるためのパパの料理教室など目的や対象を明確化すること。
- ・さんきゅうパパプロジェクト（内閣府）男性の育児休暇取得率向上に向けた研修会で、今年
は浜松・静岡・沼津で開催。
→地元企業に向けて開催したらどうか。

具体的なプランを考える際のコンセプトについて包括的な助言。

- ・少子高齢化の影響で家族の形がとても変化している。（1人娘、2人兄弟など）
- ・今まで、長男が親を扶養する（その妻が介護する）かわりに長男夫婦が遺産相続、孫の世話をしてもらい、ということでバランスをとっていた状況が、最近では少子化のため娘の役割が変わってきている（自分の親を介護する必要）。子育てについても、「義理の親がみる」から「娘の親がみる」ケースも。親との関係が変わるから、子どもとの関係も変わる。双系化。娘も息子も同じように自分の親をみる、そして祖父母はどちらの子どもも世話する時代へ変化している。その中で夫、妻の役割、互いの関係性も変わるのは必然。「孫育ての講座」「育爺という言葉」も出てきた。社会の変化に対応したものを実施する必要があるのでは。

意見交換

- ・イクメンフォトコンテストについて、とてもいいイベント。お客様の信頼にもつながるような取組みになる。（委員1）

情報提供③

事務局から女性活躍に関する取組みの紹介（配布資料に沿って説明）

厚生労働省の取組み紹介

- ・働き方の未来2035（徳島県上勝町、鹿児島県三島村の事業紹介）
→徳島県上勝町→葉っぱビジネス
→鹿児島県三島村→楽器ジャンベによるギニア共和国との交流「グローバル」
- ・イクメンプロジェクト
→イクメン「子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性のこと」
→イクメン企業アワード：男性の育児休業取得に積極的に取り組む企業を表彰
男性の育児休業をとるメリット、実状・展望、企業 to do、
受賞企業の具体的事例（スケジュールの見える化、育児サポート制度の導入、ファミリーデーの実施、家族の職場訪問、勤務時間の柔軟性、キッズセレモニー休暇、19時前に全社員退社励行 etc)
- ・企業が活用できるマーク紹介（3つ）
→えるぼし認定制度（男女差のない採用・管理職登用、多様なキャリア選択実施企業）、くるみんマーク（男性の育児休業取得者がいる企業）、トモニン（仕事と介護を両立できる職場環境が整った企業）
- ・イクボス宣言書の紹介

情報提供④

事務局から講演会のご案内（第2回子育て応援休暇勉強会WLB講演会3月2日）

- ・子育て応援休暇の説明、第1回勉強会の紹介

意見交換

ハードルを低くして、取り組みやすいものから。市から1つ、こんなことをやったらいいのではないかというものがあれば提案していただきたい。(事務局)

市として実効性のあるものをご提案いただきたい。(委員1)

大きなテーマではなく、取り組むポイントを絞ってもいいと思う。今年度2回開催した会議だが、来年度そのテーマについて専門的な方を読んで勉強会を開くのも可能。すぐに計画をたてる、というよりは、こんなことを始めたらいいのでは、という提案で意見を多く取り入れたい。ほかの自治体の取組みを参考にして富士宮市では何ができるかどうかを検討したい。(事務局)

まずはできることから、小さなことから始めたらどうか。例えば、イクボス宣言(三角錐の形)の取組みを始めている。内容も特別難しいものではない。無駄に勤務時間外に職場に残らないことを徹底するなど、イクボスという取組みもいいと思う。市役所内にも部課長会などで広めていきたい。(事務局)

プレミアムフライデーについて(2月から開催)。お仏壇のやまきが1月に実施。会社の半数14時退社。社長の取り組む姿勢がすばらしい。14時からお仏壇の値引きセールを開始。従業員たちも戸惑いながら面白くやっている。WLBと売上を両立している企業。委員の皆さんには、ぜひ気楽に提案をしていただきたい。(事務局)

いろいろな取組を紹介していただき大変参考になった。個人的には、男性が家庭に入らないと女性が外に出て活躍できないと感じる。例えば、男性の育児休暇取得率1位、というような極端な話ではあるが、そういったことを狙ってはどうか。外からの移住者を呼び込むきっかけにもなる。日本一を何か狙ってインパクトのあるものに取り組むのはどうか。男女共同参画も30年前から始めて、まだまだ変わっていないというのが実感であり、女性活躍も同じような状況に陥らないよう工夫する必要がある。(委員2)

男性が早く帰る、家事を行うなどの、男性が家庭で輝く社会づくりが大事。富士宮では〇日が早帰りの日、というのを富士宮全体で設定してはどうか。子育て世代に関わらず、全員が早く帰ることによって、全員が恩恵を受けることができるのではないか。男性も女性も、未婚も既婚もすべて。富士山のすその、末広がりなど考えて毎月8日はいかがか。これを土台として意見交換をしていただきたい。(委員1)

パパの早帰りで、料理をつくってくれると嬉しい。(委員3)

パパがたくさん買い物してくれると、経済効果もあるのではないか。(委員1)

企業によって実施は難しいかもしれないが、昨日の夕飯のメニューの話などで社員同士のコミュニケーションも取れる。そういったツールとしてもいいのでは。(委員1)

毎月15日は食育の日、がある。市民に周知されていない事実がある。(事務局)

市を挙げて、地元経済界を挙げて、徹底させることが必要。たとえば広報で流すとか。(委員2)

パパがスーパーのレジに並んでいたら10%引きとか。(委員3)

現状では、富士宮市の企業はプレミアムフライデーにまったく関わっていないのでは。本当に徹底して全体で取り組めば、きっとすごい効果がでるが、どうやって実施するか仕組みを考えなければいけない。(委員2)

会議の名前は女性応援会議だが、女性だけががんばってもうまくいかない。男性も、がんばる女性を応援してもらうことが必要。みんなにうれしい政策があれば。(事務局)

厚労省ジョカツ部、超イクメン部の取組みで、男性が家庭で輝いてもらうことが大切であった。男性の家庭活躍が必要では。(事務局)

男性の家事参加について、調理は焼きそばぐらいがいい。8日はやきそば。みんなでふじのみやの焼きそばを消費するし、家族で焼きそばを食べることはいいこと。焼きそば学会とタッグを組んで、8日は市民全員で焼きそばを食べる。焼きそば消費量日本一を目指すなどはどうか。(朝日委員)

宇都宮市では市民みんなで餃子を食べる日があるそう。(委員1)

焼きそば教室をやる必要があるかも。(委員3)

三島市の料理教室に倣い、富士宮ではパパの焼きそば教室を開いてもいいのではないかと。そうすると実施日や時間はいつがいいだろうか。(事務局)

土曜勤務者がかなりいる。連続講座だとさらに難しい。男女共同参画センター開催の父向け講座は、単日に絞って開催しているのが現状。(事務局)

講座を受けるには、自分が情報収集して、講座内容に興味があり、かつ時間が空いていたり、家族の理解が得られれば行く、という手順を考えると、集まりにくいのも頷ける。例えば、企業側から焼きそば教室への受講を促す、というくらいでないとパパ受講は厳しそう。(事務局)

大阪のたこ焼きを上手に焼けるようになると市民として認められるそう。富士宮としての焼きそばバージョンはどうか。(委員1)

何のための焼きそば教室かを明確にしなければ、ただの料理教室になってしまう。(事務局)

製造業で24時間365日生産している工場では、という実態に照らし合わせて可能かどうか、考えていた。企業ごとで取り込める内容は異なる。男性の家庭参画を社員に求めたり、推奨したりすることは可能。年に1回会社全体のイベントがあり、そこでイクメンパパの写真紹介はできそう。各々で取り組めそうな小さなことから始めるのが良いのでは。また、現在の課題は、人材不足。人員に余裕がないと育休取得やWLBをとるのは難しい。これが解消されれば取り組めるが、人材不足解消とWLBとどちらが先か、という話にもなる。人材不足がかなりのネック。いくら業務の効率化を図っても、絶対的な人数は必要。やりたいけれどもできない現実がある。そこをどうやって解消できるか検討したい。(委員3)

イクメン写真紹介など、できそうなところから取り組んでもらえたらいい。(事務局)

小さいころから男女参画、WLBの教育が必要。平成15年ごろの家庭科の教科書は、家事をしている姿はすべてお母さんだったが、今はお父さんの姿も描かれている。生涯教育の必要性、その視点で教科書も改訂されてきている。学校現場において、「誰でも家事をするのは当たり前」という人間を育てていく重要性を感じる。どの子どもどの親もみんなが協力して、少しずつ負担する社会づくりが必要。また、フォトコンテストについて、ぜひやっていただきたい。富士宮信用金庫の市民の写真を掲示しているコーナーなどで、実施してほしい。公の人たちがたくさん集まる場所でそういった写真を飾っていただきたい。一番ハードルが低い内容で、取り組みやすいと感じる。(委員4)

終わりに

貴重で活発な意見がたくさん聞けた。参考にして具体的に検討していきたい。(委員1)

ハードルが低い取組み、具体的に取り組めるものから提案していければ。(事務局)

実際いい提案だと思っても、視点を変えるとやはり難しい課題も見えてくる。大事なことは、選

択できる状況にすること。どの企業も、異なった選択肢で取組みに参加できるようにするといいいのでは。多くの提案をいただき、選択肢を多く持ったうえで事業展開できるよう、つなげていきたい。そのためには広く情報収集を行うことが大事。次年度もご協力お願いします。(事務局)

閉会